

駒澤大学

Vol.10

May.2020

# Link

KOMAZAWA

【特集】ローリングストーン  
常に新しさを求め、向上を目指して

## ROLLING STONE

A ROLLING STONE GATHERS NO MOSS.

陸上競技(マラソン) 中村 匠吾

アマチュアボクシング 田中 亮明

ブレイクダンス 湯浅 亜実



CONTENTS

2 **[特集]** ローリングストーン  
常に新しきを求め、向上を目指して

**ROLLING  
STONE**

A ROLLING STONE GATHERS NO MOSS.

Special Interview

陸上競技(マラソン)

**中村 匠吾**

アマチュアボクシング

**田中 亮明**

ブレイクダンス

**湯浅 亜実**

14 **[研究を極める]**

文学部 国文学科 准教授

**倉田 容子**

多角的な視点で学びを得ながら  
その次の関心や研究テーマを探し  
文学の新たな知見を築いていく。

16 **[名誉教授に聞く]**

名誉教授

**白水 繁彦**

メディアリテラシーや移民研究の知見を  
「ベターライフ」、将来に希望を持てる  
社会実現のために活かす。

18 **駒澤大学の就職力**

求人企業は15,695社、就職決定率97.2%

19 **駒大NEWS**

2019-2020

スポーツ、文化、地域社会で、  
駒澤大学が活躍しているニュースを一堂に!

22 **駒澤大学ブランドコンセプト**

未来を築く「伝統と刷新」の考えに基づいたブランド構築

23 **新図書館**

2022年完成に向けて

表紙イラスト: 大久保ナオ登  
制作・発行 駒澤大学 総務部 広報課

特集  
Special Feature  
ローリングストーン  
常に新しきを求め、  
向上を目指して

**ROLLING STONE**

**A ROLLING STONE GATHERS NO MOSS.**

FEATURING

NAKAMURA SHOGO TANAKA RYOMEI YUASA AMI

夢や目標を実現させるために努力を続けることは当然大事だが

成功者は、同じ環境に留まっはらない。

新しい環境に移っては、そこで磨かれながら力を蓄え、向上してきたのだ。

競技という舞台で大なる活躍を続ける

3人の姿は、私たちに刺激を与えてくれる。

A rolling stone gathers no moss.

転石苔を生ぜず。

もしくは

転がる石に苔は付かない。



単調な練習を繰り返す。それは難しいことだが  
実力を蓄え、発揮する道に必ず繋がっていく。

Special Interview 01

陸上競技選手 富士通陸上競技部所属  
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会  
男子マラソン日本代表内定  
2015年 経済学部 経済学科 卒業

# NAKAMURA SHOGO

中村 匠吾

自信を持って走ったレースで  
東京2020大会日本代表に内定

2019年9月15日、中村匠吾選手  
は2020年に開催予定(2021年に  
延期)の東京2020大会日本代表に  
内定した。その日に行われたマラソング  
ランドチャンピオンシップ(MGC)を2  
時間11分28秒のタイムで制したからだ。

MGC当日のコンディションについ  
て、「それまでしっかりと練習ができて  
いたので、自信を持ってスタートライン  
に立つことができた」と中村選手。「た  
だ、マラソンは最後の最後まで何が起  
るか分からない競技なので、起りうる  
であろう様々なことを想定してしまし  
た。それらに対して万全な準備をして  
きたつもりです。しっかりと走りきれた  
レースでした」と続けた。

「陸上の長距離種目の練習というの  
は、毎日、単調な練習の繰り返しなが  
らんどです。地味な練習なんですけど、  
それを継続していくことが難しくもあ  
り、とても重要なこと」。さらにマラソ  
ンにおいては「自分のメンタルをどのよ  
うにコントロールしていくか」が大事で、

「2時間以上走る中で、どう自分の力  
を發揮するか」というところを意識し  
て、日々練習をしています」と語って  
いる。

「1つのターニングポイントは  
「駒澤大学で活躍したい」気持ち

中村選手は小学5年生の時、地元  
内部陸上少年団に入り陸上競技を始め  
た。そのきっかけは、小学校で毎年行わ  
れていたマラソン大会で、「1年生の時か  
ら、特に何もしていなかったけど上位で  
走っていたこともあって」と言う。さら  
に、その頃の友達が少年団に入っていた  
ので、「楽しそうだな」と思ったことが  
大きかったかもしれないと目を細め  
た。内部陸上少年団では長距離種目だ  
けでなく、短距離種目や跳躍種目も楽  
しんでいた。

大会などに参加し、短距離種目や跳  
躍種目ではなかなか結果を出せなかつ  
たが、長距離種目のレースに出場する  
と上位で走っていた。そのため、中学生  
の頃から「自分は長距離向きなので  
は」と考え、長距離種目に集中してい  
くようになった。高校は、全国的にも有



東京2020大会という大きな目標を持つことができた。  
その恵まれたタイミングに感謝し、レースで実力を発揮する。

KOMAZAWA UNIVERSITY / LINK VOL.10

名な上野工業高等学校(現・伊賀白鳳高等学校)に進学したが、「2年生まではそれほど突出した選手ではなかったです」と言う。

東京2020大会日本代表内定まで「2つのターニングポイント」があったと中村選手は語るが、その一つが高校3年生の時の意識変化だ。

高校3年生になると、インターハイや国体などの全国大会でも活躍し、頭角を現し始めた。それは全国の舞台で活躍していた先輩たちの姿に刺激されたからである。「高校駅伝の常連校だったので、実力のある先輩たちがいました。『先輩たちに勝ちたい』、『自分も全国の舞台で活躍したい』という気持ちだんだん湧いてきたのが大きかったです。その思いがモチベーションに転化されたことが、一つのターニングポイントとなった。

「次のステージとなる駒澤大学、その先の実業団でもトップとして活躍していきたい」  
強い思いが心に宿っていた。

**最大のターニングポイントは「東京2020大会で戦いたい」強い意志**

中学時代から駒澤大学を志望してい

同時に、駒澤大学陸上競技部の大八木弘明監督から「マラソンで東京2020大会を目指していかないか」と言われ、思いはさらに強まった。

大学4年次には、陸上競技部の主将を務めている。「それまでキャプテンなどを担った経験はなかったのですが、主将に指名してもらって『チームメンバーと一緒に、一つの目標に向かって努力していく』という経験を得たことは、競技人生の中でもプラスになっています。競技を続けていく中で、自分の視野が広がったと感じています」と、振り返る。この年、全日本大学駅伝の4区で区間賞を獲得し、駒澤大学を4連覇に導くとともに箱根駅伝でも1区で区間賞に輝いている。

た。「箱根駅伝をテレビで観戦していた。駒澤大学は優勝経験もある強豪でしたから憧れていました。『こういう強い大学に入って、自身の力を磨きたい』という思いがありました」。

また、「高校の監督から『マラソンに向いているんじゃないか』と言われていたこともあって、『いずれマラソンに挑戦したい』という気持ちを抱いていました」と語る。そのため、駒澤大学に進学しよう一つの理由として、現在、駒澤大学陸上競技部コーチを務める藤田敦史氏への憧れがあったという。2000年の福岡国際マラソンで日本男子最高記録を塗り替えた、元日本記録保持者である藤田氏を生んだ駒澤大学。「藤田さんをはじめ素晴らしい選手を輩出しているのでも、自分も駒澤大学の門をくぐり、その指導を受けてみたいと思いました」。

大学1、2年次は、思い通りの結果が出ないことが多かったが、先輩たちに少しでも追いつけるように努力を続けていった結果、3年次頃から記録がついてくるようになっていった。  
そして大学3年の時、最大のターニングポイントがきた。2013年9月、オリピックの開催地が東京に決まったのだ。「東京2020大会で戦いたい」という気持ちが生じた。

**大きな目標を持つことは誰にとっても大事**

しかし、スポーツ選手にケガや故障はつきものだ。中村選手も4年次は故障に見舞われ、走ることができない時期があった。その後も故障で長い休養を余儀なくされた期間もあった。それでも高いモチベーションを維持し続けられるのは、「東京2020大会出場への強い思いがあるから」と言う。「長い期間、故障して活動できない状況は誰にとっても苦しいと思います。だからこそ、自分が『どこに目標を置いているか』ということが、すごく大事だと考えています」。

中村選手は、「自分は、東京2020大会を狙える良い時期に恵まれました。そのおかげで大きな目標を持つことができた。それがここまで継続することができた理由かもしれません」と、大きな目標を持つことの大切さを語ってくれた。

中村選手は駒澤大学から実業団・富士通に入り、現在も大八木監督の指導を仰いでいる。「大八木監督は現場主義なので、とても練習を大切にしています。駒澤大学陸上競技部の学生と、自分の練習を見るのは大変だと思いますが、しっかり練習を見てくれる監督で

す。そういうところが『指導者を信じて進んでいける』ということなのか、と改めて感謝しています」。

**レース当日に、100%の実力を出し切れる状態に持っていく**

今、中村選手の強さは「スピードとスパート力」と評されているが、その力を生み出したのは「駒澤大学での駅伝での経験が大きい」と話している。例えば、1区を走ったことで集団の駆け引きを体得し、マラソンのレースで活かされている。また、残りの距離を考えてスパートしていくという練習を継続してきたことが、スパート力の強さにつながったとしている。

「本当は、学生時代にマラソンを始めたいのですが、スタミナを作るところに少し時間がかかって実業団入りしただけになりました。しかし、駒澤大学でしっかりと練習を継続した結果、マラソンで力を発揮できているのだと思います」。

大会に向けて「どの選手でも、実力のピークを試合に持っていけるのは、年に1、2レースぐらい。ですから、ピークをレース当日に持っていく計画を組み立てて、故障などに気をつけ、練習をこなしていくことが大事だと思っていま

す」と話してくれた。

**内定した時の皆さんの喜びを胸に、重ねてきたことを出し切れる走りを**

駒澤大学の学生や関係者には、「東京2020大会代表に内定した時、皆さんが喜び、祝福してくださって嬉しかったです。試合当日は今までやってきたことを出し切れるような走りを皆さんに見てもらえたら、と思っています。期待に応えられるように頑張ります」と、力強いメッセージを贈ってくれた。



Profile  
中村 匠吾

1992年生まれ。三重県出身。富士通陸上競技部所属。2014、2016年世界ハーフマラソン選手権日本代表。2018年びわ湖毎日マラソン7位(日本男子1位)。マラソンの自己ベストは2時間8分16秒。







あれから4年。  
モチベーションを高める方法を模索しながら  
ここまで来た。あとは東京2020大会のリングで  
強い自分を見せるだけ。

Special Interview 02

アマチュアボクシング選手 中京学院大学附属中京高等学校教諭  
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 男子ボクシング日本代表内定  
2016年 経済学部 商学科 卒業

**TANAKA RYOMEI**

田中 亮明

ついに手にした  
東京2020大会代表の座  
大舞台で良い結果を出す自信はある

「自分は大一番に強いので、東京2020大会出場チャンスをもたらしたら良い結果を出す自信はあります」と語っていた田中亮明選手は、今年3月20日、東京2020大会日本代表(ボクシング男子フライ級)に選出された。「東京2020大会では、今までで一番強い自分を見せる」と、練習に余念がない田中選手だが、これまでは「その時その時で、どうしたらモチベーションが上がるのか、考えながらボクシングを続けてきた」と語った。特にこの4年間はいろいろ考えることが多く「長く感じた」とつぶやいた。

4年前、大学4年の時、プレオリンピックで優勝、全日本選手権でも初優勝を飾り、リオ2016大会代表の最有力候補と目された。しかし、その後の最終予選で良い結果を出せず代表の座を逃してしまっ。

「リオ2016大会の代表になれなかったことは悔しかったですが、辛くはなかったです。全日本選手権を何連覇しても代表になれなかった選手は何人もいますから、自分はまだまだだと感じました」と振り返り、「実は、このタイミングで選手を辞めようと思ったん



世界一の舞台上、見ごたえのある試合をすることで  
アマチュアボクシングの面白さを多くの人に感じてもらいたい。

ですよ。すでに母校の中京学院大学附属中京高等学校に就職し、社会科教員とボクシング部のコーチを務めていた田中選手は、校長先生に「教員の仕事1本でいきます」と告げた。

**モチベーションを4年間保つ難しさ**  
いろいろな方法を試みていた

「でも悔しい、自分はまだボクシングをやれるのに」という思いは消えず、葛藤の日々が続く。そして、「やっぱり東京2020大会に出たい」という本心に気づき、日本代表を目指すことにした。「前言撤回したら、校長先生をはじめ同僚たちが『日本代表を目指せ！』って、すごく応援してくれました。それを見て、頑張らなきゃいけないと思いました」。

しかし、その後は試行錯誤が続いた。2017年はフライ級からバンタム級に階級を上げ、厳しい相手とあえて戦うことを選び、2018年には「そろそろ東京2020大会を目指す準備をしなければ」とフライ級に戻すなど様々な試みをした。「2019年は東京2020大会代表選出がかかった年だったので、モチベーションは否応なく高まりましたし、しっかりと全日本選手権で優勝しました」。環境を変えたり、気持ちを変えたりしながら、さらに強く高まった。

コボコにされましたよ。でも、やっぱり「大学一、日本一」の選手って強いんだな」と実感し、駒澤大学に入学して、日本一を目指そうというモチベーションが高まった。

駒澤大学ボクシング部について田中選手は、「ボクシングが大好きな、いい人たちばかりで、本当に楽しい4年間でした。リーグ戦で良い成績を残せなかったり、主将のくせに体調不良で2試合しか出られなかったりしたこともありましたが」と笑う。

り最高峰の舞台へと挑んでゆく。

**「これなら勝てる」そう感じたのがボクシングという種目だった**

ボクシングとの出会いは中学1年生の時、近所のボクシングジムへ通ったことから始まる。5歳から空手をやっていて、のめり込んでいるわけではなく、「けっこう強かったんですけど、ずっと練習がしんどいと思っていました」。そこで、気分転換をはかろうと考え、「ボクシングから得たものを空手に活かす」という理由で空手道場とジムへ通っていたが、ほどなく「ボクシングだけにしよう」と決める。

ボクシングを選んだことについて田中選手は、「僕は体が大きくなって体重も軽い方でした。でも、空手の試合は学年別だったので自分より体重が重い相手と戦うことも多々ありました。自分より重い相手に勝つことも多かったけれど、それでも体重があるような相手にはかなわないわけですよ。でも、ボクシングは体重別ですから「これなら勝てる！」と思いました」。

しかし、中学3年生の時に、初めて出場した全国大会では勝てなかった。「ボクシングに向いていないのかもしれない」と思ったが、右利きのオーソドックスなスタイルで、初めから「世界一」を目指したいと、どこかではなく、「僕は世界に出たい」と思っていた。そして、駒澤大学時代に世界の舞台へと駒を進めていった。

「日本一」になりたくて全日本選手権での優勝を目指していました。でも、全日本の優勝者は自動的に海外の大会にも出場することになります。大学3年次、惜しくも全日本選手権で準優勝。その時の優勝者が駒澤大学の先輩で、林田太郎コーチの弟・林田翔太選手だった。しかし、林田選手が引退するというところで、準優勝だった田中選手が繰り上がり、海外の試合に出場することになる。「海外での初めての試合はインドネシアでした。その時は負けましたが、そこから『世界で勝ちたい！』と思うようになりました」。

翌2015年、大学4年次に全日本選手権で念願の優勝を果たし、それから毎年、世界の舞台で戦っている。

**アマチュアボクシングに魅了され関わり続けたい気持ちに揺るぎなし**  
「プロボクサーにならないのか」と、これまでずっと質問された。田中選手の弟が、WBO世界フライ級チャンピオンで無敗3階級制覇を成し遂げたプロボクサー田中恒成選手ということもある



スタイルからサウスボースタイルに変えて、「それでダメだったら辞めればいい」と、気持ちをリセットしたという。後々、このサウスボースタイルが世界に羽ばたく強力な武器となった。

高校2年生になると実力が発揮され、国体で準優勝し、高校3年生からは4年連続で国体優勝に輝いている。

**駒澤大学で日本一を目指し目標が日本から「世界」へ変わる**

田中選手は高校3年生の時、「駒澤大学に行く」と決める。

高校時代、駒澤大学のボクシング部にも所属していた。しかし、田中選手は「プロボクサーになろうと思ったことは一度もないです」と断言し、「アマチュアボクシングが好きなんです」と続けた。

その魅力が「幅の広さと青春」という。「アマチュアボクシングは、始めたばかりの素人レベルから、プロの世界に行ったらすぐ通用するようなハイレベルな選手までいて、幅が広がって面白いですよね。そして、ボクシング部の高校生とかが一生懸命戦っている姿を見ると、何かそこに、青春を感じて『いいな』と思うんです」。田中選手は「トップレベル選手の試合を見るのも好きですけど、まだまだ未熟な高校生同士の戦いを見るのも好きなんです」と、母校ボクシング部のリングを眺めた。

「将来もアマチュアボクシングに関わってみたい。高校のボクシング部をサポーターしたい」と考えていたため、駒澤大学で教員免許を取得し、今は母校のボクシング部監督として後進を支えている。「例えば、中学まではあまり目立たなかった生徒が高校でボクシング部に入って、最初は本当に下手なだけで、いっぱい練習して上手くなって、高校3年生で全国大会に出るとか、そういう姿が本当に嬉しいんですよ。僕は金メダルを取っても学校の先生でいるつもり

には、何度も合宿に行っていた。その時、小山田裕二監督や、当時まだ学生だった林田太郎コーチと出会い、とても良い刺激を受けたという。「当時、同じライトフライ級の林田さんは本当に強い選手で、僕の目標でした。また、駒澤大学の卒業生には、ロンドン2012大会銅メダリストの清水聡選手（現プロボクサー）もいたので、『強い選手がこんなにいる駒澤大学はすごい！』と感じていました」。

合宿に来ていた田中選手は、憧れの林田選手とスパarringをしたこともある。「高校生だった僕は、もちろんボクシングが大好きなんです」。

**駒大OBの誇りを胸に、皆さんのガッツポーズを引き出したい！**

田中選手は「駒澤大学のOBとして出場し、東京2020大会を盛り上げていきたいと思っています！ボクシングをよく知らない人にも試合を観てもらって『アマチュアボクシングって面白い！』と思ってもらえるといいですね。僕も、観ていて面白いと思える試合をしますから、観てくれる人や応援ができれば多いほど、嬉しいですし頑張れます。みんなでガッツポーズしましょう！」と、目を輝かせた。



Profile  
田中 亮明

1993年生まれ。岐阜県出身。ボクシング選手、中京学院大学附属中京高等学校教諭。駒澤大学3年次まで国体4連覇。2015、2016、2019年 全日本選手権優勝。強みはサウスボースタイルから繰り出される左ストレート。







KOMAZAWA UNIVERSITY / LINK VOL.10

いくつもの国際大会で優勝し世界的にも有名なB-Girlとして活躍を続けている

2019年9月、ハンガリー・ブダペストで開催された「第1回世界アーバン大会」のブレイクダンスで初代女王となった湯浅亜実さんは、世界的に有名なB-Girl(女性ブレイクダンス・プレイヤー)の一人。「とにかく、カッコよく踊ることが信念だ。

ブレイクダンスはストリートダンスの1ジャンルで、アクロバティックな動きとバトル的要素が強いことが特徴。パリ2024大会の追加種目になることが決定的となっている。

技に挑戦し、できるよつになるその達成感が心を突き動かした

湯浅さんは小学1年生からヒップホップダンス教室に通っていたが、当時は習い事という感じで、それほどハマってはいなかったという。そして小学5年生の時に「先生が、ウィンドミルというブレイクダンスの特技を見せてくれて、『私もウィンドミルやりたい!』と思って」、ブレイクダンスの教室にも通い出したことが、B-Girlへの第一歩となった。

「練習してウィンドミルができるよ

うになった時、他のダンスにはない、ブレイクダンスだけの技を体得する達成感を感じました。それが魅力的で、このダンスにのめり込んだきっかけですね」と湯浅さん。

世界の人々と繋がれることもブレイクダンスの魅力の1つ

そして、中学2年生の頃、ブレイクダンスのもう一つの魅力に気づかされる。「先生が少し前からオーストラリアに居住していたので、先生に会うために初めて海外旅行をしました。英語も話せませんでした。ブレイクダンスを通じて、年齢や国籍などバツグラウンドがまったく異なる人々と繋がることができる、『これってすごいことだ!』と感動しました」。帰国後、「ブレイクダンスのスイッチが入って、ものすごく練習するようになったんです」と言う。

オーストラリアでの体験は、駒澤大学を志望することにも繋がる。「ブレイクダンスを通して世界の人と繋がれることも私の大きな楽しみなので、英語を学びたいと思いました。英米文学科では、海外の文学や文化も学べるので、異文化理解を深めるためにも役立つと思いました」。

今は、目の前の試合で「カッコよさ」を出すことにかけている。その思いがまだ燃えていたら、パリに挑戦するかもしれない。

自分が思う「カッコよさ」を追求試合でもスタイルを変えない、それがこだわり

湯浅さんは、世界大会を意識し始めたきっかけについて、2017年にアメリカで開催された「Silverback Open Championships 2017」で、自身が初優勝したことを挙げている。「初めて世界大会に出場して、予選を勝てたらいいな、くらいの気持ちだったのですが優勝してしまっって、気持ちが大きく変わりました」。

「自分のスタイルが世界に通用する」。その感覚を得たことは自信となり、自分が思う「カッコよさ」を世界の舞台上で観せようとする原動力になった。

「『カッコよさ』っていうのは、やっぱり人によって感じ方が違うと思っています。だから、審査員全員に好まれるカッコよさはないと思うので、『自分がカッコいいと思う動きをすること』に尽きますし、それが私の、こだわりです」。

そういう湯浅さんは大技を体得しても、それがカッコいいと思えなければ試合で使わない。「自分のスタイルを崩して勝っても、後悔するだけなので、自分が思う『カッコよさ』を追い求

Special Interview 03

B-Girl(女性ブレイクダンス・プレイヤー)  
Red Bull BC One B-Girl World Final 2018 初代女王  
文学部 英米文学科 4年

YUASA AMI

湯浅 亜実

Profile

1998年生まれ。埼玉県出身。B-GirlのAMI。B-BoyのKatsu1さんに師事。「Silverback Open Championships 2017」、「Red Bull BC One B-Girl World Final 2018」、2019年「第1回 世界アーバン大会」などで優勝。

めたい」と、前を向いた。

駒澤大学のキャンパスライフはなくてはならない大切な時間

湯浅さんは、駒澤大学の友人たちを「絶対に必要な存在」と話す。「ブレイクダンス一筋というタイプではなく、大学での学びや友人との時間が私にとっては大切。大学の友人たちはB-GirlのAMIではなく、普通の大学生の湯浅亜実として接してくれるので、それがとてもありがたいですね」。

また、「私のブレイクダンスを応援していただけなのは、もちろんすごく嬉しいのですが、私の動きや試合からエナジーを感じ取ってもらい、『自分もやりたいことに挑戦しよう』とか『何か新しいことを始めてみよう』と思ってくれたらより嬉しいですよ」と、メッセージを伝えてくれた。

最近では「パリ2024大会を目指すのか」と聞かれることも多いというが、「今まで、目の前の大会だけを見てやってきたので、4年後のことを考えたことがない」と語る。しかし、「自分のスタイルをみんなに観せたい、という思いはあるので、もし4年後にB-Girlだったら、きつと挑戦すると思います」と微笑んだ。



STORY

最初の研究テーマ

私は、明治時代から現代までの小説を研究対象とし、小説の中で描かれている人々が置かれた歴史的、政治的な文脈をすくい上げ、人間の生を形作る諸条件について考察しています。

最初の研究対象は、日本近代文学における女性の老いで、大学院に入る頃には、この研究テーマを決めていました。その理由の一つは、大学でジェンダー研究やフェミニズム批評の授業に興味を持ったことです。私が読んできた小説を振り返って見た時、「文学作品に登場する人物は若い男性が多くて、女性の存在感が薄い」と気づきました。

もう一つの理由は、実は私はおばあちゃん子で、高校時代に祖母が他界してから、祖母の生き方について考えることがよくありました。その中で「なぜ小説の中に、祖母のような人物が描かれていないのだろう」と、疑問を持ちました。たまに高齢の女性が登場しても、その登場の仕方は男性との関わりに限定されており、一人の人間として存在していない、と感じたからです。

STORY

研究対象を探して

現在の研究テーマは、日本近代文学における女性と政治です。明治期の自由民権運動の頃、「政治小説」というジャンルが生まれ、盛んになりましたが、特にその頃活躍した書き手・宮崎夢柳に関心を持ち、このテーマを研究し始めました。なぜ夢柳に興味を持ったかというと、私は駒澤大学で「文学史Ⅱ(明治時代以降)」を担当していますが、授業の準備として政治小説をきちんと読み直したことがきっかけの一つです。政治小説の中でも特に女テロリストが多く登場する夢柳の作品に惹かれました。

夢柳への関心が、もともと持っていた「なぜ政治の世界は、私にとってこんなによそよそしいのだろう」「政治に関心を持たなければと思っているのに、参入しづらいと感じる、この壁はなんだろう」というモヤモヤと結びつき、現在の研究テーマとなりました。

ここ数年、夢柳を中心とする政治小説、のちに明治社会主義に転じた民権運動出身の女性活動家・景山(福田)英子、と追いかけてきた流れの一端として、現在はプロレタリア文学に関心を寄せています。

多角的な視点で学びを得ながら  
その次の関心や研究テーマを探し  
文学の新たな知見を築いていく。

授業や学生の卒業論文から刺激を受けつつ研究対象を見つけ、日本近代文学の研究を続ける倉田准教授。その多角的でユニークな視点に迫ってみよう。

Discover the joy of learning!



KURATA  
YOKO

Profile

東京都生まれ。日本女子大学卒業。お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了、博士(人文科学)取得。杉野服飾大学専任講師を経て、2014年に駒澤大学着任。著書に『語る老女 語られる老女—日本近代現代文学にみる女の老い』(学芸書林)がある。

文学部 国文学科 准教授

倉田 容子

STORY

著書とついでに

遅かれ早かれ、誰もが老いていくわけですが、これまで読んできた文学作品の中に「自分の将来像を重ねられる女性の登場人物がない」「一人の人間として高齢女性を描いた作品がない」という違和感をテーマに落とし込みました。

研究していく中で、年齢差別(エイジズム)に関する知見が英語圏で積み重ねられていくことを知りました。男性の老いが、多くの場合、定年退職によって区切られているのに対して、女性の場合は性別役割分業により、家庭の中に囲い込まれている場合が多く、男性と同様に考えることはできません。「では、どうしたら、女性の老いを紐解いていけるか」と試行錯誤し、家族制度や消費文化など、様々な切り口からアプローチを重ねました。

2008年に博士号を取得し、その2年後、この研究を著書にまとめ、最初の研究テーマを完結させました。



最初の研究テーマをまとめた著書  
『語る老女 語られる老女—日本近代現代文学にみる女の老い』  
(学芸書林)

STORY

卒論からの刺激

前述したように、教えている内容が自身の研究テーマのきっかけになることもありますが、学生の研究や卒業論文から刺激を受け、学びを得ることも多いです。

文学部国文学科の学生は2年次からゼミで研究をすることもあり、修士レベルまで高められた卒業論文も少なくありません。私自身は、つい文学作品の物語構造や時代背景、文学史上の位置づけといったところに目が行きがちなのですが、学生たちは個々の作品の細やかな表現に目を凝らし、彼ら自身が感じ取ったものをきちんと研究に落とし込んでくるので、そこにも学ぶべき視点が大いにあると思っています。

そういう優れた素養を持つ学生に、「他者のことを謙虚に学び、その上で想像力を持って活躍してほしい」と伝えたいですね。研究も同様ですが、何事も勝手な想像を押しつけ、自分の狭い常識で判断してはいけないと思います。想像力を持ち、視野を広げたら、勉強も課外活動もさらに素晴らしいものが得られると思いますよ。

他者のことを謙虚に学び  
想像力を鍛えたら  
より人間性が豊かになります。



例えば、平林たい子の作品では、妊娠した女性がよく出てくるのですが、プロレタリア文学の全盛期にその女性たちの言動は「女性のエゴが表れている」と批判されました。しかし、フェミニズム批

評が登場すると同じ描写が肯定的に解釈されるようになり、一人の作家でも時代によって評価や位置づけが変化することが分かります。そういうところにも面白さを感じています。

「学ぶところが多い」という倉田ゼミの卒業論文集





「目に映り、聞こえてくるものには  
“作者の意図”がある」  
メディアリテラシーを高め、  
情報に操作されない人になろう。



Emeritus Professor

# SHIRAMIZU SHIGEHICO

白水 繁彦 名誉教授

Profile

1948年 佐賀県生まれ。成城大学文芸学部卒業。成城大学大学院日本常民文化専攻修士課程修了。社会学博士(立教大学)。高千穂商科大学教授、武蔵大学社会学部教授・社会学部長を経て、2008年 駒澤大学グローバルメディア・スタディーズ学部教授。2015～2017年 駒澤大学大学院グローバルメディア研究科委員長。「CNNデイブレイク」キャスターとしても活躍。神奈川県広報ビデオ審査委員、放送番組国際交流センター委員等を務める。著書は『海外ウチナーンチュ活動家の誕生:民族文化主義の実践』(御茶の水書房)、『日本人と海外移住』(共著)(明石書店)など多数。

メディアリテラシーをすべての人に  
切実に願う、社会人ゼミで養う

もう一つ、ゼミで磨きたいと思っ  
ているのがメディアリテラシーである。

「以前から、日本ではメディアリテラ  
シーの教育が足りないと感じていまし  
た。メディアリテラシーとは、メディア  
からの情報を批判的な思考も持って  
読み解くことができる力、そして的確  
に発信する力で、民主主義社会をよ  
り良く機能させるために必須の能力  
だ。「例えば、テレビで放映されるド  
キュメンタリーを鵜呑みにする人が多  
い。しかし、その映像作家が「なぜ、こ  
のシーンにこのアイテムをわざわざ写  
し込んでいるのか」を考える必要があ  
ります。なぜなら作家はそこに、意図  
を持たせているから」と言い、「実は、私  
たちの目に映り、聞こえてくるものは  
すべて、作者が作っている。作者が一  
流であればあるほど、自然に仕込んで  
きます」と続けた。「参加者がメディア  
や為政者に操作されることなく、自分  
で考えて行動、発言する民主主義の  
確かな担い手になる必要があると強  
く思います」。

「ゼミを通して目指すのはベターラ  
イフ。世の誰しもが将来に希望を持  
てる社会を作るにはどうすればいいの

自由に発言できる場から生まれる  
“発見”を重視する「社会人ゼミ」

白水名誉教授は現在、駒澤大学で  
「社会人ゼミ」と呼ばれる「グローバル  
メディア・スタディーズ・ラボラトリ」社  
会とメディア」プロジェクト公開研究  
会」で講師を担っている。

「これは私の理想のゼミ」と言う。な  
ぜなら、参加者は年齢や学歴、職業な  
ど一切不問で「勉強したい人が勉強す  
る場」だからだ。

ゼミの大テーマは「映像で学ぶ、映  
像を学ぶ」。白水名誉教授はテーマに  
即した映像作品を選択・提供し、必要  
であればゲスト講師を招き、映像鑑賞  
後に行われるディスカッションの舵取  
りを行っている。学期毎のテーマは「日系  
移民の体験から民族・文化を考え  
る」、「ドキュメンタリーの作られた」、  
「戦争とプロパガンダ」などで、かなり踏  
み込んだ映像と課題を参加者に投げ  
かける。しかし、ディスカッションは敷  
居が高いものではない。「参加者は自  
由に自分の意見を言い、質問します。  
こういう場はありそうだけど、なか  
なかな見つからない。だからこのゼミを作り  
たかったわけです」。

か、思考のきっかけを提供したいと考  
えています」。そして、ゼミは毎回、「こ  
こで話し合った知見を、制度や教育をよ  
り良く変えるために、どう活用できる  
か考えてみましょう」という、白水名  
教授のメッセージで締めくくられる。

移民研究の知見は、日本で暮らす  
外国人問題に活用が可能である

白水名誉教授の専門はメディア社  
会学、エスニック文化論など多彩だ。最  
初はマスコミニケーションの研究をし  
ながらアメリカでフィールドワークを行  
い、「小規模な地域メディア」に関心を  
持ち、ローカルメディアの研究を始め  
た。その後、移民の生活基盤である  
「エスニックコミュニティ」が存在するこ  
とに気づき、エスニックメディアの研究  
へと広がる。特にハワイの日系人メ  
ディアや文化史については多数の著書があ  
り、さらにハワイに暮らす沖縄系社会  
の研究から、海外沖縄系の文化につ  
いても多数の講演を行っている。

「私は海外で、移民について、多角  
的に研究をしてきました。その知見を  
今、日本で暮らす外国人に対する法  
整備や教育問題の解決に活かせる  
と考えています」と、提言を続けたいとい  
う思いも語ってくれた。

# M+S

edia ociology

メディアリテラシーや移民研究の知見を  
「ベターライフ」、将来に希望を持てる  
社会実現のために活かす。

移民研究の第一人者である白水名誉教授は  
移民のメディア文化論などにも知の領域を上げ、  
さらにメディアリテラシーの重要性を説き  
民主主義社会を機能させるための提言を続ける。





# 駒大NEWS

2019-2020

スポーツ、文化、地域社会で、  
駒澤大学が活躍しているニュースを一堂に!



## 第96回 箱根駅伝

6区の中村大成選手(左)  
7区の小林歩選手(右)



3区の田澤廉選手  
4区の小島海斗選手



8区の下前一貫選手

## 第51回 全日本大学駅伝 対校選手権大会



## 第31回 出雲駅伝

6区の中村大聖選手

### 総合力を発揮し、各駅伝大会で強さを印象づけた!

**陸上競技部**  
「第96回 箱根駅伝」総合第8位  
2020年1月2日(木)・3日(金)に東京・大手町～神奈川・芦ノ湖往復(10区間217.1km)で開催された「第96回 東京箱根間往復大学駅伝競走」において、10時間57分54秒のタイムで総合第8位となりました。  
往路は、1区の中村大聖選手(政治4)から2区の山下選手(市場戦略4)へ4年生の襷リレーでスタートを切りましたが13位と出遅れてしまふまかの展開に。しかし、3区の田澤選手(経済1)が区間新記録、7人抜きの快走で6位まで順位を押し上げます。さらに4区の小島選手(市場戦略3)が区間5位の力走で続き上位に食らいつきますが、最終的に第8位となりました。  
迎えた復路では、6区の中村大成選手(法律4)が区間6位の好走で6位まで順位を上げ、7区の小林選手

(心理3)も区間5位の走りで見えます。その後、一時9位まで順位を落としましたが、早稲田大学とほぼ同時に襷を受け取ったアンカー10区の石川選手(現代応用経済2)が、23kmの壮絶な競り合いの末に順位を1つ上げ、8位でゴールテープを切りました。10時間57分44秒の記録で総合第8位となり、54年連続完走を果たしました。  
「第51回 全日本大学駅伝」第3位  
2019年11月3日(日・祝)に愛知・熱田神宮～三重・伊勢神宮(8区間106.8km)で開催された「秩父宮賜杯第51回全日本大学駅伝対校選手権大会」において、5時間15分04秒のタイムで第3位となりました。  
1区の中村大聖選手(政治4)が区間2位と順調な滑り出しを見せましたが、一時はシード圏外の10位まで順位を落とす苦しい展開に。それでも7区の田澤選手

(経済1)が区間賞の走りで見ると、アンカー山下選手(市場戦略4)も区間3位の走りで見ると、第3位でゴール。チームの総合力を発揮したレースとなりました。  
「第31回 出雲駅伝」第2位  
2019年10月14日(月・祝)に鳥根県出雲市の出雲大社～出雲ドーム(6区間45.1km)で開催された「第31回 出雲全日本大学選抜駅伝競走」において、2時間10分06秒のタイムで第2位となりました。  
1区の山下選手(市場戦略4)が区間2位の走りで見ると、好調なスタートを切り、3区田澤選手(経済1)と4区小林選手(心理3)の区間新記録となる快走で首位に立ちましたが、最後は國學院大学の猛追を受け、惜しくも2位でのフィニッシュとなりました。大学三大駅伝の初戦で今シーズンの強さを見せました。

※学年は当時のもの

# 駒澤大学の就職力

就職決定率 **97.2%**

求人倍率 **4.55倍**

求人企業 **15,695社**

直近4年、就職希望者の95%以上が就職している。

全国の大卒求人倍率の1.83倍を大幅に上回る求人倍率だ。(2019年度卒業生対象)※出典リクルートワークス研究所

東京を中心に、全国各地の多様な業種の企業から学生一人当たり4.55社と多数の求人がある。

2019年度は15,695社から求人があった。就職決定率は97.2%。  
業界研究や各種資格試験、文章・面接対策講座など300にものぼる就職支援講座や希望者全員を対象にした面談など、一人ひとりの学生に向けたきめ細かなサポートが駒澤大学の就職力を支えている。

### 主な就職先

|  |   |   |  |  |
|--|---|---|--|--|
| <p><b>■ 仏教学部</b></p> <p><b>神学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四国旅客鉄道株式会社 (JR四国)</li> <li>小田急電鉄株式会社</li> <li>株式会社ユニテッドアローズ</li> <li>日本年金機構</li> <li>独立行政法人労働者健康安全機構</li> <li>防衛省 陸上自衛隊</li> </ul> <p><b>仏教学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三井不動産リアルティ株式会社</li> <li>株式会社伊藤園</li> <li>株式会社パナソニック</li> <li>株式会社武蔵野銀行</li> <li>株式会社西日本シティ銀行</li> <li>日本郵便株式会社</li> <li>株式会社くらしの友</li> <li>警視庁</li> </ul> <p><b>■ 文学部</b></p> <p><b>国文学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新日本法規出版株式会社</li> <li>スタンレー電気株式会社</li> <li>小田急電鉄株式会社</li> <li>株式会社丸善ジュンク堂書店</li> <li>株式会社百五銀行</li> <li>株式会社栃本銀行</li> <li>株式会社りそな銀行</li> <li>日本郵政株式会社</li> <li>KDDI株式会社</li> <li>学校法人北里研究所</li> <li>目黒区役所</li> <li>安曇野市役所</li> <li>浜松市役所</li> <li>東京消防庁</li> <li>東京都教育委員会</li> <li>埼玉県教育委員会</li> <li>横浜市教育委員会</li> </ul> <p><b>■ 英米文学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社セガゲームス</li> <li>THK株式会社</li> <li>東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本)</li> <li>全日本空輸株式会社</li> <li>ANA成田エアポートサービス株式会社</li> <li>株式会社JALスカイ</li> <li>渡辺パイプ株式会社</li> <li>イオンリテール株式会社</li> <li>楽天株式会社</li> <li>株式会社JTB</li> <li>株式会社ザ・キャピトルホテル東急</li> <li>株式会社ニチイ学館</li> <li>株式会社ジャックス</li> <li>北海道労働局</li> <li>神奈川県警察本部</li> <li>東京都教育委員会</li> <li>横浜市教育委員会</li> </ul> <p><b>■ 地理学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鹿島道路株式会社</li> <li>中部測量株式会社</li> <li>応用地質株式会社</li> <li>日本郵便株式会社</li> <li>国土交通省 国土技術政策総合研究所</li> <li>防衛省 航空自衛隊</li> <li>沖縄県庁</li> <li>栃木県庁</li> <li>セーラー万年筆株式会社</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>小田急電鉄株式会社</li> <li>東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本)</li> <li>東海旅客鉄道株式会社 (JR東海)</li> <li>西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)</li> <li>四国旅客鉄道株式会社 (JR四国)</li> <li>国土情報開発株式会社</li> <li>パーソルテンプスタッフ株式会社</li> <li>東京国税局</li> <li>北州市役所</li> </ul> <p><b>■ 歴史学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社北日本新聞社</li> <li>東海旅客鉄道株式会社 (JR東海)</li> <li>株式会社鹿児島銀行</li> <li>日本生命保険相互会社</li> <li>美和ロック株式会社</li> <li>山九株式会社</li> <li>クラブツーリズム株式会社</li> <li>ANA成田エアポートサービス株式会社</li> <li>日本出版販売株式会社</li> <li>日本年金機構</li> <li>仙台国税局</li> <li>大田区役所</li> <li>藤枝市役所</li> <li>長岡市役所</li> <li>八潮市役所</li> <li>守谷市役所</li> <li>神奈川県警察本部</li> <li>千葉県警察本部</li> <li>長野県教育委員会</li> <li>宮城県教育委員会</li> </ul> <p><b>■ 社会学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スズキ株式会社</li> <li>小田急電鉄株式会社</li> <li>株式会社星野リゾート・マネジメント</li> <li>株式会社ニチイ学館</li> <li>株式会社ワールド</li> <li>株式会社三菱UFJ銀行</li> <li>株式会社八十二銀行</li> <li>城南信用金庫</li> <li>株式会社ベネッセスタイルケア</li> <li>富士ソフト株式会社</li> <li>株式会社トーカイ</li> <li>独立行政法人労働者健康安全機構</li> <li>社会福祉法人奉儀会</li> <li>公益財団法人鉄道弘済会</li> <li>川口市役所</li> <li>栗野市役所</li> <li>警視庁</li> <li>神奈川県警察本部</li> <li>長崎県警察本部</li> </ul> <p><b>■ 心理学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社東急レクリエーション</li> <li>日本ハム食品株式会社</li> <li>東急電鉄株式会社</li> <li>エムサービス株式会社</li> <li>北信信用金庫</li> <li>静岡県庁</li> <li>埼玉県庁</li> <li>練馬区役所</li> <li>沼津市役所</li> </ul> <p><b>■ 経済学部</b></p> <p><b>経済学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スターツグループ</li> <li>三井不動産リアルティ株式会社</li> <li>株式会社にんべん</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>タカラスタンダード株式会社</li> <li>東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本)</li> <li>東京地下鉄株式会社 (東京メトロ)</li> <li>キャンマークetingジャパン株式会社</li> <li>株式会社トトリ</li> <li>中央労働金庫</li> <li>世田谷信用金庫</li> <li>岡三証券株式会社</li> <li>ソフトバンク株式会社</li> <li>株式会社ジュビターテレコム</li> <li>楽天株式会社</li> <li>セコム株式会社</li> <li>株式会社ぐるなび</li> <li>国分グループ本社株式会社</li> <li>独立行政法人国立病院機構</li> <li>東京国税局</li> <li>山形県庁</li> <li>横浜市役所</li> <li>川崎市役所</li> <li>警視庁</li> <li>東京消防庁</li> </ul> <p><b>■ 商学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タカラスタンダード株式会社</li> <li>東芝テック株式会社</li> <li>日本電気株式会社 (NEC)</li> <li>ヤマト運輸株式会社</li> <li>東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本)</li> <li>北海道旅客鉄道株式会社 (JR北海道)</li> <li>株式会社日本アクセス</li> <li>株式会社内田洋行</li> <li>アクサ生命保険株式会社</li> <li>第一生命保険株式会社</li> <li>東日本電信電話株式会社 (NTT東日本)</li> <li>クラブツーリズム株式会社</li> <li>EY新日本有限責任監査法人</li> <li>全国労働者共済生活協同組合連合会 (全労済)</li> <li>警視庁</li> </ul> <p><b>■ 現代応用経済学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大和ハウス工業株式会社</li> <li>スターツグループ</li> <li>キュービー株式会社</li> <li>東洋水産株式会社</li> <li>株式会社ヤクルト本社</li> <li>補助工業株式会社</li> <li>久光製薬株式会社 東京本社</li> <li>コニカミノルタ株式会社</li> <li>スタンレー電気株式会社</li> <li>三菱食品株式会社</li> <li>株式会社三和</li> <li>株式会社みずほフィナンシャルグループ</li> <li>株式会社千葉銀行</li> <li>株式会社りそなホールディングス</li> <li>株式会社マイナビ</li> <li>株式会社クレイトホールディングス</li> <li>セコム株式会社</li> <li>一般社団法人 農協協会</li> <li>静岡県庁</li> <li>警視庁</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社三井住友銀行</li> <li>株式会社千葉銀行</li> <li>サイバーコム株式会社</li> <li>株式会社JALスカイ</li> <li>株式会社伊藤園</li> <li>三井住友信託銀行株式会社</li> <li>リゾートトラスト株式会社</li> <li>学校法人北里研究所</li> <li>日本年金機構</li> <li>総務省</li> <li>林野庁</li> <li>特許庁</li> <li>東京国税局</li> <li>北海道労働局</li> <li>警視庁</li> <li>千葉県警察本部</li> <li>神奈川県警察本部</li> <li>埼玉県警察本部</li> <li>大阪府警察本部</li> <li>福島県警察本部</li> </ul> <p><b>■ 政治学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社LIXIL</li> <li>日本貨物鉄道株式会社 (JR貨物)</li> <li>株式会社中日新聞社</li> <li>大日本住友製薬株式会社</li> <li>株式会社三菱UFJ銀行</li> <li>株式会社ゆうちょ銀行</li> <li>日本オラル株式会社</li> <li>日本赤十字社</li> <li>日本年金機構</li> <li>東北運輸局</li> <li>栃木県庁</li> <li>いわき市役所</li> <li>警視庁</li> <li>埼玉県警察本部</li> <li>群馬県警察本部</li> <li>新潟県警察本部</li> <li>静岡県警察本部</li> <li>東京消防庁</li> <li>東京都教育委員会</li> </ul> <p><b>■ 経営学部</b></p> <p><b>経営学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大和ハウス工業株式会社</li> <li>三井不動産リアルティ株式会社</li> <li>杏林製薬株式会社</li> <li>伊藤忠食品株式会社</li> <li>アルパイン株式会社</li> <li>株式会社豊田自動織機</li> <li>日本航空株式会社</li> <li>株式会社JALスカイ</li> <li>ANAエアポートサービス株式会社</li> <li>富士ゼロックス株式会社</li> <li>株式会社大塚商会</li> <li>ソフトバンク株式会社</li> <li>アジックスジャパン株式会社</li> <li>スターバックスコーヒー株式会社</li> <li>株式会社千葉銀行</li> <li>株式会社りそな銀行</li> <li>住友生命保険相互会社</li> <li>株式会社オリエントコーポレーション</li> <li>日本オラル株式会社</li> <li>株式会社ソフプロ</li> <li>セコム株式会社</li> <li>株式会社ナノモト</li> <li>独立行政法人国立病院機構</li> <li>東京国税局</li> <li>埼玉県庁</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>相模原市役所</li> <li>東京消防庁</li> </ul> <p><b>■ 市場戦略学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>積水ハウス株式会社</li> <li>アマノ株式会社</li> <li>日本航空株式会社</li> <li>株式会社良品計画</li> <li>三菱食品株式会社</li> <li>ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社</li> <li>資生堂ジャパン株式会社</li> <li>株式会社カインズ</li> <li>株式会社群馬銀行</li> <li>株式会社静岡銀行</li> <li>株式会社横浜銀行</li> <li>日本生命保険相互会社</li> <li>株式会社マイナビ</li> <li>楽天株式会社</li> <li>株式会社日本旅行</li> <li>星野リゾートグループ</li> <li>山形県庁</li> <li>神戸市役所</li> </ul> <p><b>■ 医療健康科学部</b></p> <p><b>診療放射線技術科学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>独立行政法人国立病院機構</li> <li>国立研究開発法人国立国際医療研究センター</li> <li>国立大学法人 東京大学</li> <li>東京大学医学部附属病院</li> <li>地方独立行政法人神奈川県立病院機構</li> <li>神奈川県立がんセンター</li> <li>横浜市医療局病院経営本部</li> <li>一般社団法人新潟県労働衛生医学協会</li> <li>学校法人慶應義塾 慶應義塾大学病院</li> <li>学校法人慈恵大学 東京慈恵会医科大学</li> <li>学校法人日本医科大学</li> <li>日本医科大学付属病院</li> <li>学校法人東京女子医科大学</li> <li>東京女子医科大学病院</li> <li>日本赤十字社 東京都支部 大森赤十字病院</li> </ul> <p><b>■ グローバル・メディア・スタディーズ学部</b></p> <p><b>グローバル・メディア学科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大和ハウス工業株式会社</li> <li>積水ハウス株式会社</li> <li>富士通株式会社</li> <li>株式会社コロン</li> <li>東北電力株式会社</li> <li>日本航空株式会社</li> <li>株式会社ローソン</li> <li>カコム株式会社</li> <li>株式会社マイナビ</li> <li>富士ソフト株式会社</li> <li>ソフトバンク株式会社</li> <li>東日本電信電話株式会社 (NTT東日本)</li> <li>株式会社福島放送</li> <li>株式会社千葉銀行</li> <li>株式会社JTB</li> <li>株式会社エイチ・アイ・エス</li> <li>日本郵便株式会社</li> <li>トランスコスモス株式会社</li> <li>海上保安庁</li> <li>大田区役所</li> <li>神奈川県警察本部</li> </ul> |
|--|---|---|--|--|

(2020.3.31現在)



「学生選書ツアー in 神保町」を開催

三省堂書店神保町本店にて「2019 学生選書ツアー in 神保町」を開催しました。このイベントは、学生が自ら読みたい本や研究で必要としている本などを選び、図書館の蔵書として購入するもので、学生のニーズを踏まえた図書館運営を目的に開催しています。



経営学部創立50周年事業の一環として  
組織学会研究発表大会で特別講演会を開催

経営学部創立50周年事業の一環として開催された「2019年度組織学会研究発表大会」での特別講演「物的構造と組織文化」に、バージニア大学のメアリー・ジョー・ハッチ名誉教授を招聘しました。

経済学部の番場博之ゼミが「ふくしま尾瀬檜枝  
岐マウンテンフェス2019」に参加

番場ゼミでは「流通政策」を研究しており、「産学連携」の活動としてイベントへの参加が実現しました。フェスのブースにおけるプロモーションを担当し、SNSで尾瀬の魅力を伝えるモザイクアートの作成等を行い、2日間合わせてのべ1,000人以上の方々にご参加いただきました。



「海外研修・留学フェア2019」を開催

学生に具体的な留学のイメージを持ってもらうことを目的に毎年実施。短期語学セミナー・交換留学・認定校留学の説明会の他、留学を経験した学生と直接話すことができる「相談ブース」や「英語勉強法セミナー」等が開かれ、留学を考える多くの学生が参加しました。



駒澤大学エジプト調査隊によるクラウドファンディング  
「メイドウム・ジャパン・プロジェクト」が成立

文学部歴史学科の大成道則教授率いる駒澤大学エジプト調査隊が、クラウドファンディングサービスを利用したエジプト・メイドウム遺跡の調査・発掘プロジェクト「メイドウム・ジャパン・プロジェクト」の支援募集を実施しました。最終的に総額520.5万円のご支援をいただき、この資金をもとに今後調査を実施します。



本学図書館所蔵『松平家忠日記』が  
国の重要文化財に

図書館が所蔵する『松平家忠日記』が、国の重要文化財に指定されました。松平家忠は徳川家康の一門の戦国武将で、『松平家忠日記』は当時の武将の日常生活や合戦での様子が記された貴重な自筆日記です。家康が天下人となっていく過程を家臣の視点から知ることができます。『松平家忠日記』の全文画像は駒澤大学図書館電子貴重書庫にて公開しています。



中国・瀋陽医学院、カンボジア・王立プノンベン大  
学とそれぞれ国際交流協定を締結

瀋陽医学院は、1949年に設立された学生数約13,000人の大学です。医療系を中心とした15学部の他、修士課程を有しており、本学の医療健康科学部との交流はもちろん心理学や社会福祉学等の領域で、幅広い交流が期待されます。

王立プノンベン大学は、1960年に設立された学生数約12,000人の大学で、理学部、人間社会学部、工学部、開発学部、教育学部、外国語学部の6学部を有しています。



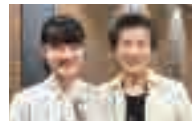
経済学部の吉田健太郎ゼミが  
「うまいもん大学2019」に参加

大学と食品メーカーがコラボして、テーマに沿った限定商品を開発する取り組みで、「大船・鎌倉をイメージしたうまいもん」をテーマに、8大学×8企業が出展しました。吉田ゼミは、株式会社ピー・エス・コープの「ラ・メゾン」とコラボした商品開発に取り組み、8大学の中で売り上げ・客単価・人気投票で第1位となり、三冠を達成しました。



経済学部の姉歯曉ゼミのエブリンさん(商3)が  
「留学生論文コンクール2019」で銅賞を受賞

受賞論文は「グローバルイシューを考えるー食料主権を考えるー」です。



経済学部70周年記念シンポジウム  
「日本経済と金融の将来像」を開催

経済学部の代田純教授の司会のもと、井上智洋准教授をはじめ4人の講演会を行いました。その後、深見泰孝准教授がコメントーターを務め、パネリストと会場との質疑応答を実施しました。805の方々にご参加いただき、関心の高さが感じられました。



経済学部の深見泰孝ゼミが  
「証券ゼミナール大会」で優秀賞を受賞

この大会は、事前に作成した論文、当日のプレゼンテーション・討論の総合点で優秀賞が決定します。深見ゼミは、第4テーマ「今後の証券会社の営業姿勢ー国内証券市場の活性化を念頭にー」と、第5テーマ「日本における金融教育のあり方」で、それぞれ優秀賞を受賞しました。



「駒澤大学と世田谷区との連携・協力に関する  
包括協定」を締結

本学は、世田谷区との間に「駒澤大学と世田谷区との連携・協力に関する包括協定」を締結しました。行政における様々な分野で人的交流を促進し、知的・物的資源の相互活用を図り、地域社会の持続的な発展に資することを目的に協定締結に至りました。今回の包括協定を機に、今後も世田谷区と一層連携協力を進め、地域課題の解決と地域社会の持続的な発展への貢献を目指して参ります。



開校130周年記念棟「緑の丘」が完成

2019年5月23日(木)に、駒澤大学開校130周年記念棟「緑の丘」が完成し「竣工記念式典」を執り行いました。「緑の丘」は1階建てとなっており、「緑の丘スタジオSEED」・「緑の丘スタジオMOON」と名付けられたサークル利用優先スペースが2室、災害用備蓄倉庫が1室設けられています。屋上は「緑の丘テラス」と名付けられたテラスとなっており、学生のコミュニケーションの場となっています。



文学部社会学科の李妍焱教授が「第17回日本  
NPO学会賞 最優秀賞(林雄二郎賞)」を受賞

林雄二郎賞は、「日本のNPO等に関する研究や活動の発展に多大な貢献をした最優秀の1点」に贈られる最優秀賞です。李教授の受賞対象著作は「下から構築される中国ー「中国的市民社会」のリアリティ」(明石書店)です。



経営学部の小野瀬拓ゼミがパネル展示  
「駒澤大学 三島海雲展」を開催

この企画は、インフォグラフィックをもとにカルピス創業者である三島海雲氏を表現したパネル展示で、種月館のラウンジ「ウイステリア」を利用して実施しました。



文部科学省の「トビタテ!留学JAPAN日本代表  
プログラム」第11・12期生派遣留学生に小沼  
あみさん(GM2)と迫田勇哉さん(政治4)が選出

このプログラムは、2014年からスタートした官民協働で取り組む海外留学支援制度で、支援企業・団体からの支援・寄附により、官民が協働して将来世界で活躍できるグローバル人材を育成します。小沼さんの留学国はイギリスとスウェーデンで、「多様性人材コース」として「高齢社会における映画産業の発展を考える留学」をテーマに留学します。迫田さんの留学先はカナダで、「多様性人材コース」として「日本にコーチング文化を」をテーマに留学します。



経営学部の中村公一ゼミ  
が株式会社トリドール  
ホールディングスと協働  
プロジェクトを実施

学生食堂内にも店舗がある「丸亀製麺」で有名な株式会社トリドールホールディングスで協働プロジェクトの報告会を行いました。中村ゼミでは、4つのグループに分かれ昨年9月からこのプロジェクトを実施しており、同社のCSRミッション「GPEC」をもとにした中高生向けの社会価値提供プログラムの開発を行いました。



法学部の三竹直哉准教授の授  
業でSDGsを学ぶカードゲーム  
「2030 SDGs」を実施

「比較政治学」の授業において、SDGsを学ぶカードゲーム「2030 SDGs」を実施しました。このゲームを通じて、「なぜSDGsが私たちの世界に必要なのか」、そして「それがあることによってどんな変化や可能性があるのか」を体験的に理解することができます。



グローバル・メディア・スタディーズ学部の平井  
辰典講師と服部圭介さん(グローバル・メディア  
研究科修士1)が「Visual Computingシンポジ  
ウム2019」でフォーラムイト賞を受賞

2人の研究発表「AR空間内でのインタラクティブなプログラムを作成可能なプログラミングツールの提案」が国内を代表する画像分野のシンポジウムで「フォーラムイト賞」を受賞しました。



岡山県・石川県・宮城県・京都府と新たに学生UI  
ターン就職促進に関する協定を締結

本学では上記に加え、栃木県、長野県、茨城県、新潟県、山形県、山梨県、福岡県、岐阜県、札幌市、福井市と既に就職支援に関する協定を結んでいます。

経済学部の長山宗広ゼミが世田谷区主催の地  
域交流イベント「うままちプラス」に参加

JRA馬事公苑前けやき広場で行われたこのイベントは、2020年東京オリンピック・パラリンピック(馬術競技)に向けた地域交流を目的として世田谷区が開催するもので、長山ゼミは「小学生の自由研究サポート」等3つのブースを運営しました。



文学部社会学科の松信ひろみゼミが  
「東京レインボープライド2019」に参加し  
来場者アンケートを実施

文学部社会学科の松信ひろみゼミが、代々木公園で開催されたLGBTの方々の祭典「東京レインボープライド2019」に参加し、来場者・ブース出展の方々にイベントに関するアンケートを実施しました。また、アンケート実施は5年目を迎え、推移をまとめた報告会を開催しました。



禅ブランディング事業 各種イベント開催

主な行事として、「駒澤大学で講談を聞こう! 一休諸国ばなし〜地獄問答〜」、「駒澤大学における「禪と心」探求の歴史」、「道元絵伝」の絵解きと説話」、「日日は好日」映画上映会&大森立嗣監督来校イベント」を開催しました。







新図書館外観イメージ ※計画につき今後変更になる可能性があります。

### 新図書館のコンセプト

ちの蔵  
「智の蔵」 智を蓄える  
智をつかう  
智をつなげる

豊富な資料を適切な環境で保管する、開かれた書庫。  
紙媒体と電子媒体をシームレスに利用できるハイブリッド・アーカイブズ。  
あらゆる媒体からなる情報にも容易にアクセス可能な、探しているものが見つかりやすい図書館。オープンな空間と開かれた書架がもたらす、偶然の出会いと発見に満ちた図書館。  
対話型の学修空間、豊富なコンテンツにアクセスしやすい設備、環境、人、組織による支援の充実した進化する図書館。  
人と情報が集まり、出会い、新たな智を生む「自他共創」の拠点。

新図書館は、現図書館の東隣(大学会館跡地)に、地上6階・地下3階の構造、延床面積約11,000㎡の規模で建設されます。現図書館は、開校90周年記念事業の一環として建設されましたが、1973(昭和48)年の竣工から47年が経過しており、建物の老朽化に加え、約125万冊の蔵書を収容可能な書庫書架の不足や多様な学修スタイルに対応できない画一的な設えの閲覧席といった諸課題を抱えています。また、図書館利用者をはじめ、国や社会から大学に求められている「授業外学修時間の増大」という要請に対応するには困難な状況です。これらの諸課題を解決し、近年の大学図書館に求められる多様なニーズに応え得る図書館とするため、①建物中央に書架を集中配置し、開架率を飛躍的に向上させる「智の蔵」、②階層ごとに〈収蔵〉、〈交流〉、〈学修〉、〈調査〉、〈研究〉という概念を設け、上層階に行くほどに学びの専門性を高め、入館者が求める滞在場所を自由に選択できる構成とする「フロアゾーニ

ング」、③多様な学修スタイルに応じ、時代に即した学修・研究を行うことができる「多様な閲覧スペース・学修空間」の3点を建設コンセプトの軸に据え、開校140周年を迎える2022(令和4)年の完成を目指し、建設計画を進めています。なお、駒沢キャンパス構内施設整備の都合により、2022年の完成から数年間、新図書館内の一部に教場機能を設ける予定です。その教場機能空間は、将来新教場棟が完成し、新図書館から教場機能を移転した後に、図書館機能をはじめとする多様な機能に転用できるよう「スタジオスペース」として位置付け、予め教場機能空間から他機能空間への改修を計画しています。新図書館の建設に際しては、軸とする3つのコンセプトを踏まえながら、開校130周年記念棟「種月館」に続く、駒沢大学のさらなる高度化と、図書館内に蓄積される「大学の知」を多方面へ発信する新たな拠点を整備するため、最新の技術と最高の知見を結集して建設事業を進めていきます。

### 建設計画

|        |                                    |
|--------|------------------------------------|
| 計画建物名称 | 駒沢大学図書館                            |
| 完成予定   | 2022(令和4)年 6月竣工<br>10月供用開始         |
| 構造     | 鉄骨鉄筋コンクリート造<br>(一部鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造) |
|        | 地上6階・地下3階                          |
| 建築面積   | 1,832.61㎡                          |
| 延床面積   | 10,559.74㎡                         |



新図書館内観イメージ



## KOMAZAWA UNIVERSITY BRAND CONCEPT 駒澤大学ブランドコンセプト ～将来に向けたあるべき姿を目指して～

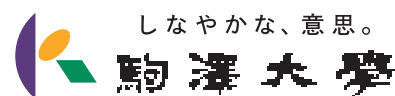


駒澤大学は、これまで培われてきた歴史と伝統という確かな土台の上に、  
本学の未来を築く「伝統と刷新」の考えに基づき、ブランド構築を進めています。  
これからは、新しいスローガン「しなやかな、意思。～Learn Actively. Live Wisely.～」を掲げ、  
将来に向けた駒澤大学のありべき姿を目指します。学内・学外のさまざまな接点において、  
ブランドコンセプトを構成する3つの概念「ミッション・提供価値・パーソナリティ」を起点に、計画・実行していきます。

### 和文スローガン

しなやかな、意思。

変化と多様性に富んだ社会の中で、しなやかに、  
折れることなく、主体性をもって生きていく心を育ん  
でいくという思いを込めています。



### 英文スローガン

Learn Actively. Live Wisely.

多様な価値観や知に触れながら、学んだ知識と実  
践経験を活かして、しなやかに生きていく力を育ん  
でいくという思いを込めています。

Learn  
Actively.  
Live  
Wisely.

しなやかな、意思。  
Learn Actively. Live Wisely.

駒澤大学は、あなたの意思を信じている。

それは、すべてのほほえみ。  
自分を見つめたいという思いも、  
学びやつながりを願う思いも、  
道を見つけたそうとする思いも。  
あなたの意思が、未来をひらく。

駒澤大学は、人間の生きる力を信じている。

それは、こころの、真のしなやかさ。  
やわらかな発想も、  
他者への深いやさしさも、  
逆境を乗り越える勇気も。  
しなやかなところが、連れてくる。

あなたという人間が、ここで学び、  
しなやかに生きていくことが、駒澤大学の誇り。  
世界の和を尊び、ともに、よりよい明日を  
築いていくことが、駒澤大学の使命。



詳細は特設WEBサイト「WHAT IS OUR BRAND? 駒澤大学ブランドページ」をご覧ください。▶  
<https://www.komazawa-u.ac.jp/branding/>





- 1592 文禄元年 ● 江戸駿河台吉祥寺境内に「学林」設立  
駒澤大学の前身である「学林」は、曹洞宗が禅の実践と  
仏教の研究、そして漢学の振興を目的として設立
- 1657 明暦3年 ● 吉祥寺駒込に移転、中国の名僧・陳道榮が「旃檀林」と命名
- 1882 明治15年 ● 麻布北日ヶ窪に校舎を新築して移転、  
10月15日に校名を「曹洞宗大学林専門学本校」とする
- 1905 明治38年 ● 校名を「曹洞宗大学」と改称
- 1913 大正2年 ● 大学を現在の駒沢(旧東京府荏原郡駒澤村)の地に移転
- 1925 大正14年 ● 大学令による大学として認可、「駒澤大学」と改称
- 1949 昭和24年 ● 学制改革により新制大学に移行、  
仏教学部、文学部、商経学部の3学部で再スタート
- 1951 昭和26年 ● 学校法人令による学校法人駒澤大学に組織変更
- 1964 昭和39年 ● 法学部を開設
- 1966 昭和41年 ● 商経学部を経済学部に変更
- 1969 昭和44年 ● 経営学部を開設
- 1982 昭和57年 ● 開校100周年
- 1992 平成4年 ● 「学林」設立以来400年を迎える
- 2003 平成15年 ● 医療健康科学部を開設
- 2004 平成16年 ● 大学院法曹養成研究科(法科大学院)を開設
- 2006 平成18年 ● グローバル・メディア・スタディーズ学部を開設
- 2012 平成24年 ● 開校130周年
- 2013 平成25年 ● 駒沢移転100周年
- 2018 平成30年 ● 開校130周年記念棟「種月館」供用開始
- 2020 令和2年 ● 大学院仏教学研究科を開設



しなやかな、意思。

**駒澤大学**

仏教学部／文学部／経済学部／法学部／経営学部／医療健康科学部／  
グローバル・メディア・スタディーズ学部／大学院／法科大学院

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1  
TEL.(03)3418-9828 FAX.(03)3418-9017

<https://www.komazawa-u.ac.jp/>

K O M A Z A W A  
U N I V E R S I T Y

*Link*

Link(リンク)には「人と人との繋がり」「伝統を繋げる」  
「地域と繋がる」という意味が込められています。